

## VIII

# おわりに

安曇野市には、高山帯に生息するライチョウや、手入れされた里地里山にしか生息しないオオルリシジミ、湧水が流れる川や水路に生育するカワヂシャ等の希少な野生生物がみられます。また、北アルプスの峰々や有明山等を覆う針葉樹林やダケカンバやミズナラ等の落葉広葉樹林、その間を流れ下る中房川や烏川、犀川等の清らかな水は、安曇野市の豊かな自然を象徴しています。そして、山麓部から平野部にかけては、水田や畑地、屋敷林、その間を流れる堰等による昔ながらの田園風景が残っています。これらの環境は、野生生物にとっての生息・生育環境になっているとともに、地域特有の文化や産業を築き、豊かな心を育んできた生活の基盤でもあります。

これまで、我々は、山や川等から、食料から燃料にいたるまで様々な自然の恵みを享受しながら生活してきました。しかし、科学技術が進歩するにつれて人間の生活スタイルは変化し、人と自然とのかかわりは薄くなりつつあります。また、過度な開発行為や農林業の衰退による里地里山の荒廃は、自然環境を大きく変化させてきており、多くの野生生物が絶滅の危機に瀕しており、すでに絶滅した種もいます。

このような状況は、安曇野市のみならず、日本全国、地球全体で起こっており、野生生物の保護を含めた環境問題は、今や世界共通の大きな課題となっています。

今回、安曇野市版レッドデータブックを作成するにあたり、2011年より同作成委員会のメンバーや協力者とともに、現地調査や資料収集等をおこなってきました。その結果、安曇野市において減少傾向にあると思われる野生生物を、植物 342 種、動物 332 種、選定しました。また、安曇野市の自然に悪影響を与える可能性がある外来種等を 41 種記載しています。今後、これらの生物に注目しながら、有識者や市民団体と情報を一つにして、市民一人ひとりが協力して、自然環境を守るための取組が進められていくことを望みます。

また、これらの生物や環境の変化を継続して把握していくことが大切です。安曇野市がおこなってきた身近な生き物調査（安曇野市生きもの調査）や、生物、自然環境の情報収集・蓄積が継続されていくことを希望します。

調査を進める中で、市内に住む私も初めて知ることがたくさんあり、安曇野市の自然環境のすばらしさを再認識しました。多くの市民の方々が本書を手にし、「安曇野市の自然や文化を守り伝えていくことの大切さ」について知っていただくことを願っています。

安曇野市版レッドデータブック作成委員会  
委員長 吉田利男